

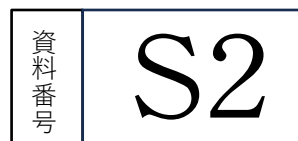
石清尾山古墳群

～目を見張る讃岐の独自性！ 積石塚、双方中円墳～

(※古墳群のすべてが積石塚や双方中円墳ではありません)

目次

1. おすすめポイント
2. 説明
3. 現地写真（「鳥の目」でも）
4. 最新の調査結果（H24～H28）
5. 積石塚古墳と盛土古墳
(高松歴史資料館)
6. アクセス



初版：2025.12.31



1. おすすめポイント

★ここでしか見られない独特な「積石塚、双方中円」古墳
なぜここまで讃岐が「尖って」いたのでしょうか？
形も「独特」です！！ どんな背景、情念が??

高松の石清尾（いわせお）山には100基を超える古墳があります。中でも**積石塚**古墳と全国的に極めて稀な**双方中円墳**が有名。**讃岐の強い独自性**を示しています。H24～H28に行われた調査結果は非常に興味深いのであわせて紹介させていただきます。

青枠内は参考文献1より抜粋引用（配置はアレンジ）

積石塚古墳とは

古墳時代の開始期（3世紀中頃～4世紀代、古墳時代前期と呼称）、讃岐では他に類を見ない特異な構築方法で築かれた「積石塚古墳」が多数築造されました。讃岐以外の地域では土で墳丘を盛り上げ、表面に葺石を貼り付けることで古墳を築くのが一般的ですが、積石塚古墳は墳丘の芯まで石を積み上げて造ります。水平テラスと垂直な段からなる階段状の外観は盛土墳とは異なる外観を呈していました。一方、前方後円墳という墳形は他の地域と共通しています。独自性と共通性が積石塚古墳のキーワードです。













積石塚古墳と石清尾山古墳群

積石塚古墳の存在は、古墳時代前期の讃岐の独自性を示すものとして、また地方と畿内中枢との関係を示す資料として古くから注目されてきました。また、中国東北部から朝鮮半島北部の地域に積石の墳墓が見られることから、東アジアにおける広域の地域間交流を示す資料とする評価も古くからあります。

石清尾山古墳群では、古墳時代前期に積石塚古墳が盛んに造られたのち、中期に古墳の築造が一時断絶し、古墳時代後期には再度盛土の群集墳が築かれます。これらの価値が認められ、現在12基の古墳が国史跡に指定されています。

石清尾山古墳群の形成過程と画期

一連の調査で、稲荷山に所在する3基の大型の積石塚古墳が全て古墳時代前期でも前半（図10-1・2期）に集中することが分かったことは非常に大きな成果です。石清尾山古墳群では、前期前半に、稲荷山を含む広範囲に多数の前方後円墳・双方中円墳が集中して築造されており、著しい密集状態であると言えるでしょう。

	峰山地区	稲荷山地区
1	 鶴尾神社 4号墳 (40)	 石清尾山 9号墳 (27)
2	 北端1号墳 (69)	 北端1号墳 (69)
3	 猫塚 (96)	 鏡塚 (70)
4	 稲荷山姫塚 (51)	 稲荷山1号墳 (38)
5	 姫塚 (41)	 北大塚 (40)
6	 石船塚 (57)	 墳丘縮尺：1/5,000 () は墳丘全長

前期前半

前期後半

こうした状況が、前期後半（図10-3・4期）になると、稲荷山での積石塚古墳の築造は停止し、峰山に集中する状況がみてとれます。墳丘の大型化は認められませんが、石清尾山古墳群のなかで積石塚古墳の築造数が収斂していく状況であると見る事が可能です。こうした状況は、備讃瀬戸の他の古墳群でも類似例が見られ、地域内の勢力が集約され、結集する過程とする評価（大久保 2006）と合致する傾向であると考えられます。また、石船塚古墳の築造を最後に、石清尾山古墳群では古墳築造が断絶しますが、この画期は古墳時代前期を通じて讃岐で連綿と続いていた、積石塚古墳の築造の終焉でもあります。

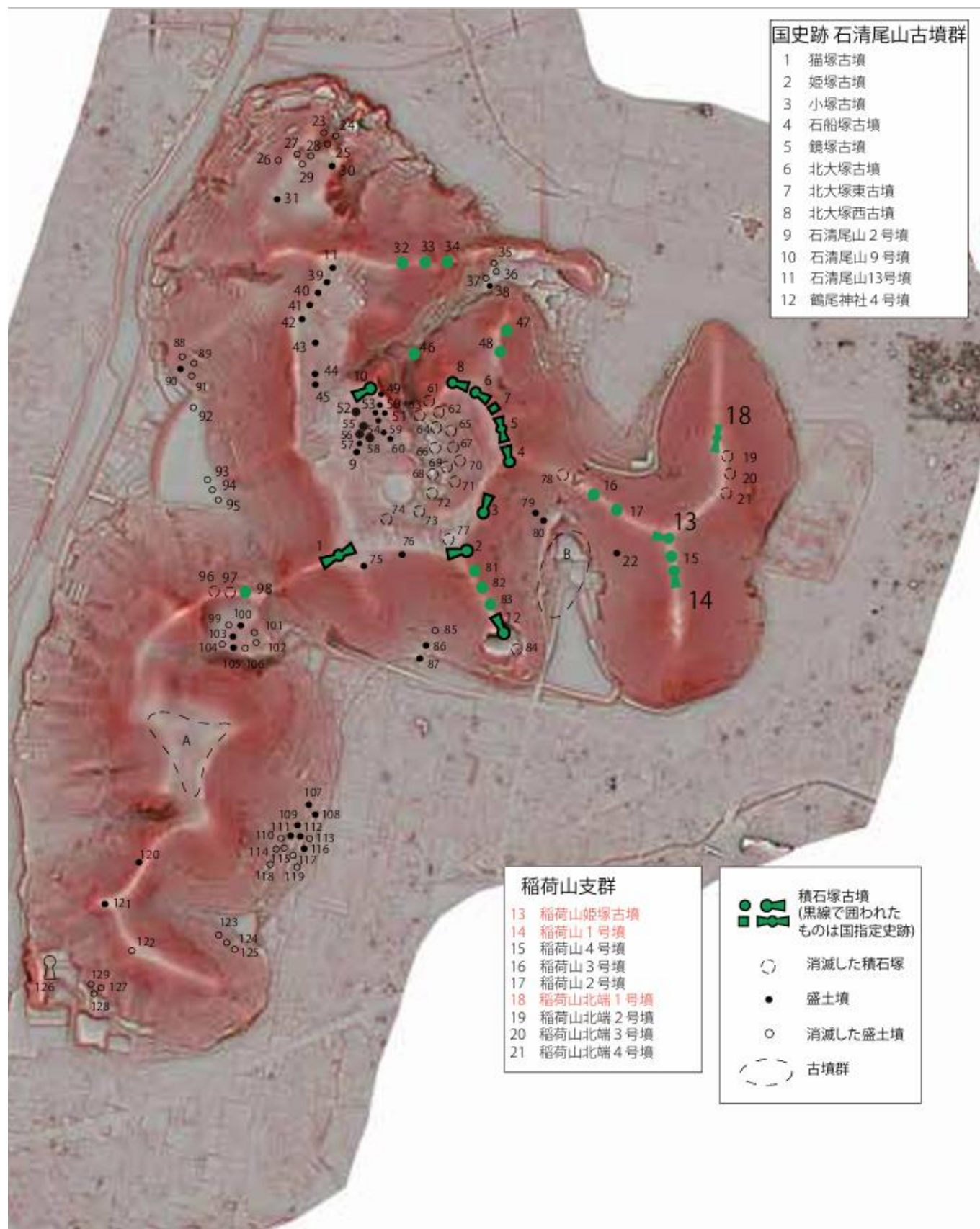
こののち、高松市域には大規模な古墳はほとんど造られなくなる一方、さぬき市富田茶臼山古墳（墳丘全長 139m）の築造に向かって、さらに広範囲で地域内の結集と地域的な独自色の喪失が進行していくことになります。

今後は、峰山地区の古墳の調査と整備を通じて、上記の歴史的背景をさらに明らかにする計画です。

大久保徹也 2006 「備讃地域における前方後円墳出現期の様相」『日本考古学協会 2006 年度愛媛大会研究発表資料集』

※大久保徹也 2013 「高松平野の前期古墳について」『シンポジウム 高松平野の前期古墳を考える 資料集』古墳編年表を一部抜粋し、今回の調査成果を加えて作成

図10 石清尾山古墳群 編年案



3. 現地写真（「鳥の目」でも）

2020.9.19



3-1 石清尾山古墳群を北東から鳥瞰

国史跡 石清尾山古墳群

- 1 猫塚古墳
- 2 姫塚古墳
- 3 小塚古墳
- 4 石船塚古墳
- 5 鏡塚古墳
- 6 北大塚古墳
- 7 北大塚東古墳
- 8 北大塚西古墳
- 9 石清尾山 2号墳
- 10 石清尾山 9号墳
- 11 石清尾山 13号墳
- 12 鶴尾神社 4号墳

稲荷山支群

- 13 稲荷山姫塚古墳
- 14 稲荷山 1号墳
- 15 稲荷山 4号墳
- 16 稲荷山 3号墳
- 17 稲荷山 2号墳
- 18 稲荷山北端 1号墳
- 19 稲荷山北端 2号墳
- 20 稲荷山北端 3号墳
- 21 稲荷山北端 4号墳

- 積石塚古墳
(黒線で囲われたものは国指定史跡)
- 消滅した積石塚
- 盛土墳
- 消滅した盛土墳
- 古墳群



稲荷山北端 1号墳
(4章で解説)

稲荷山姫塚古墳
(4章で解説)

鶴尾神社 4号墳
(5章で解説)

参考文献1より抜粋
引用（配置はアレ
ンジ）した図に追記

3-3 峰山公園管理事務所に掲載の図からの抜粋に追記



3-4



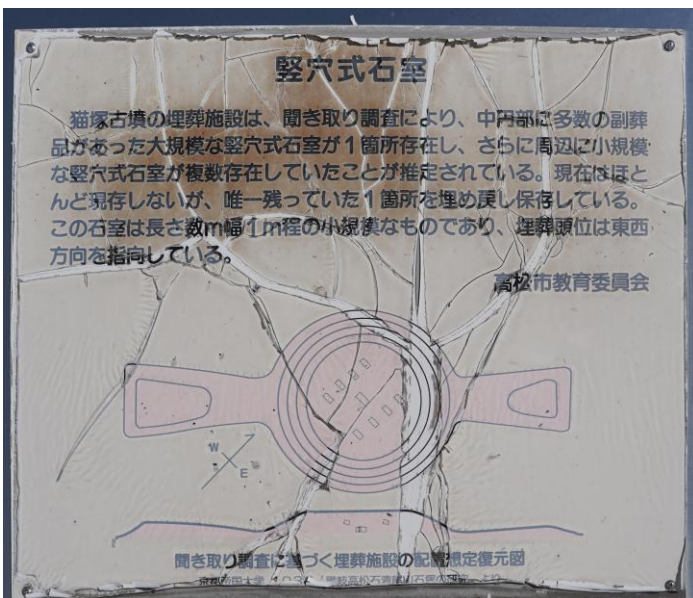
3-5 西を望む 西の平野からは見えたでしょうか？



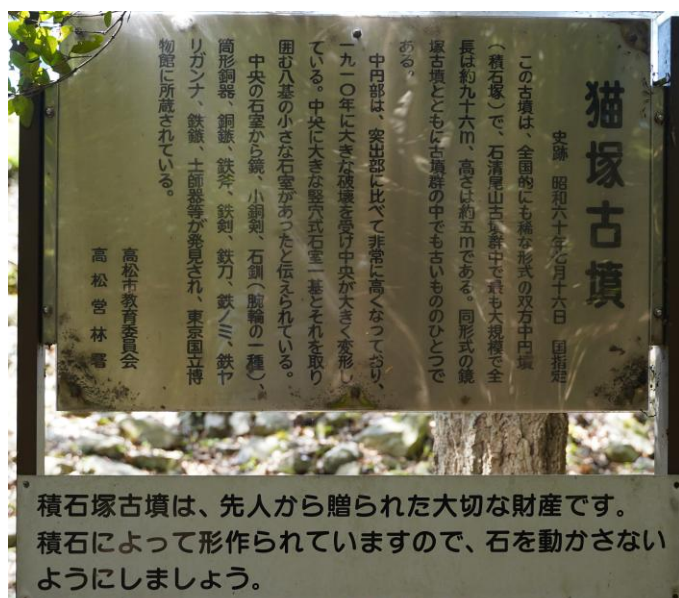
3-6



3-7



3-8 現地説明板

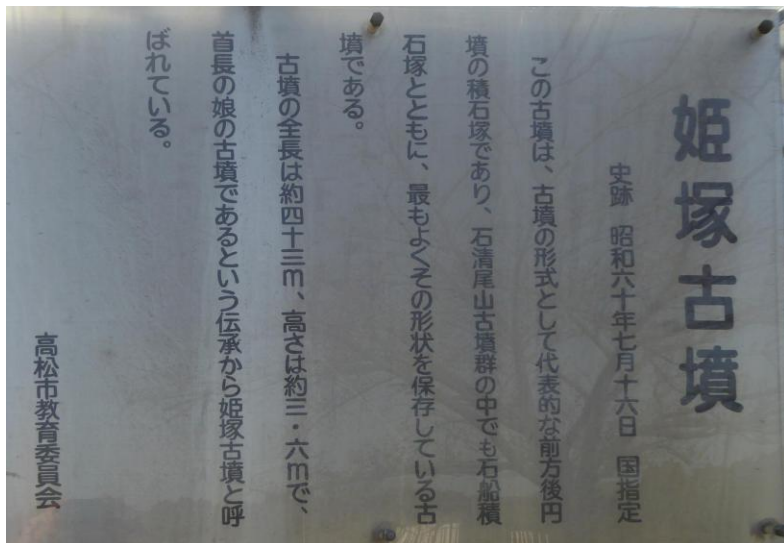


積石塚古墳は、先人から贈られた大切な財産です。
積石によって形作られていますので、石を動かさないようにしましょう。

3-9 現地説明板



3-10 峰山公園管理事務所に掲載の図からの抜粋に追記



3-11 現地説明板



3-12



南を望む
南の平野からは見えた
でしょうか？

3-13



3-14 前方部端から後円部方向を見る



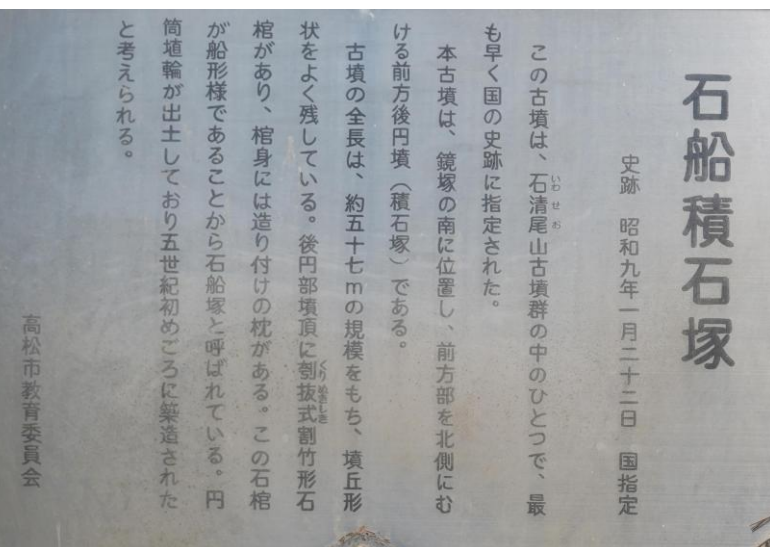
3-15 峰山公園管理事務所に掲載の図からの抜粋に追記



3-16 南を望む 南の平野からは見えたでしょうか？



3-17 前方部は細い印象です



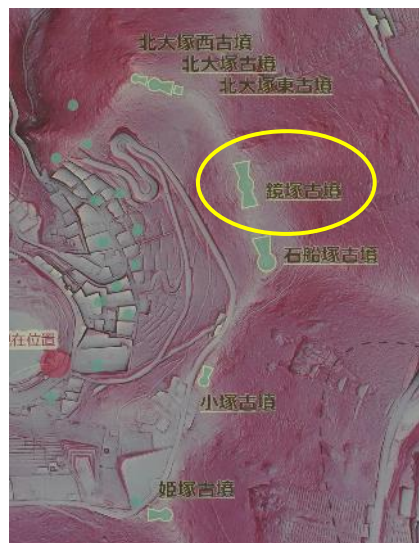
3-18 現地説明板



3-19 割竹式割竹形石棺



3-20



3-21

峰山公園管理事務所に掲載の図からの抜粋に追記



主軸

3-22



3-23

現地説明板



3-24

南側前方部端から中円部を見る



3-25 見えている高松市街地は当時海だったかも？
東の平野部からは見えただろうか？

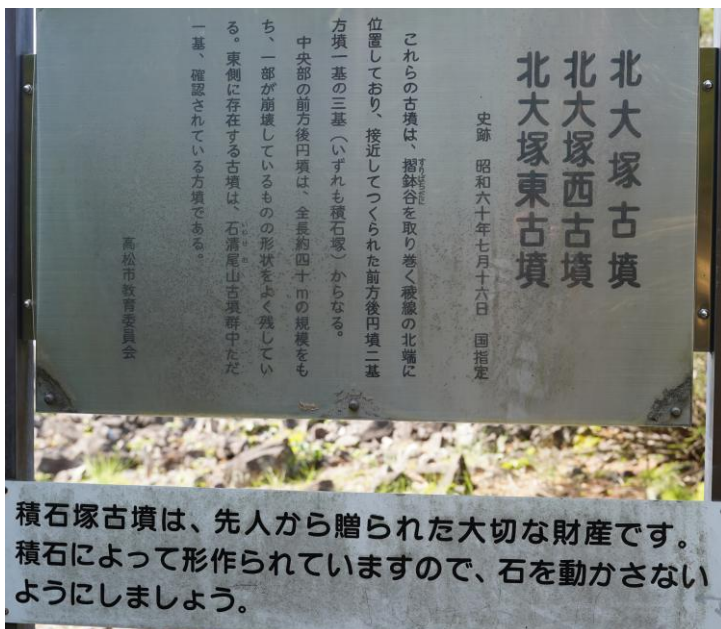


3-26

峰山公園管理事務所に
掲載の図からの抜粋に追記



3-27



3-28 現地説明板



3-29

左上写真で北大塚古墳の前方部、影がくっきり見えている部分は当初の石積み端面が残っています。細いながら「ばち状」の古形式

石清尾山2号墳

史跡 昭和六十年七月十六日国指定

石清尾山古墳群は、石を積んで造られた四世紀代の積石塚古墳が集中することによって著名であり、またこの一帯はその総数をはるかにこす多くの横穴式石室墳が一帯に所在する。石清尾山2号墳もこの中の一つである。

横穴式石室墳は石で造られた竈屋（玄室）と、それへの通路（羨道）からなり、追葬と言つて多くの人々を葬れることから、家族の墓と考えられている。積石塚古墳が少数の人を葬っているのと大きな違いである。

石清尾山2号墳が造られたのは、古墳時代も終わりの六世紀の末から七世紀の始めにかけての時期で、積石塚古墳との関連はわかっていない。

昭和六十年に石清尾山古墳群が国の史跡に指定されるにあたって、最も残りのよい横穴式石室墳であることから、併せて指定された。

高松市教育委員会

3-30 現地説明板



3-31

峰山公園管理事務所に掲載の図からの抜粋に追記



3-32



3-33

4. 最新の調査結果 (H24～H28)

黒枠内 参考文献 1 より抜粋引用

稲荷山姫塚古墳 (図3-2参照)

古墳が意味するものは - 物語る築造技術 -

稲荷山姫塚古墳は、様々な石を使い分けること、高い所で約6.5mの高さまで石を積み上げること、古墳の外面を板石積みで飾ることなど、高い築造技術をうかがうことができます。特に、板石積みは70cmほどの高さが残っており、この古墳を特徴づける石の積み方と言えます。

また、全長約54mという古墳の大きさは、同時期の石清尾山古墳群の中でも最大クラスの古墳となります。稲荷山姫塚古墳に埋葬された人物は、高い技術を持ち、なおかつ大規模な土木工事を行うことができた、高松平野でも有力な人物であったと考えられます。稲荷山姫塚古墳は、積石塚古墳という特殊な古墳を造る技術のひとつの到達点を示す古墳と言えるでしょう。

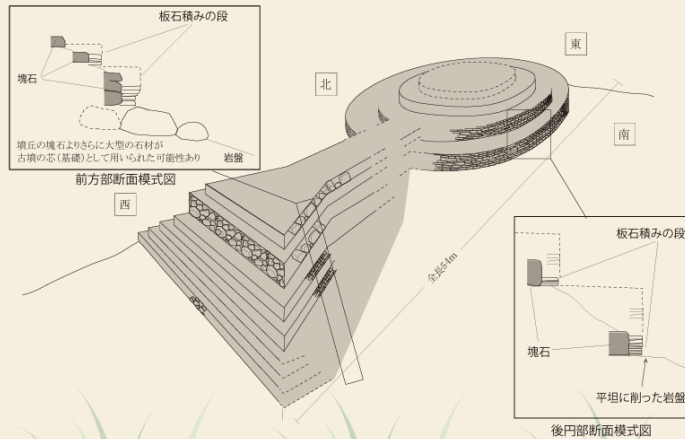


図6 稲荷山姫塚古墳 推定復元図

4-1

稲荷山北端1号墳 (図3-2参照)

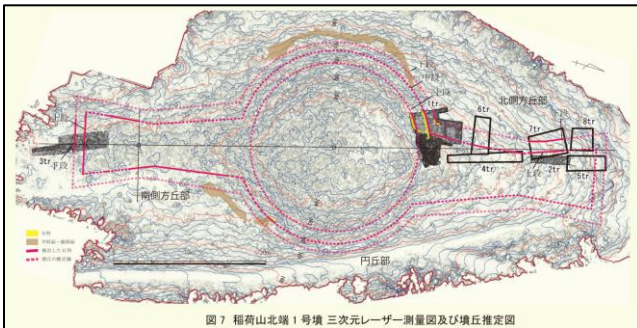


図7 稲荷山北端1号墳 三次元レーザー測量図及び墳丘推定図

4-2

<管理人のつぶやき>



野田院古墳 (S1) と似たものを感じます

4-4

稲荷山北端1号墳が語りかけること

①立地

丘陵頂部の先端に造られた古墳です。地形の制約から厳密には左右対象ではありません。

②形と大きさ

古墳の形は双方中円墳で、いずれの方丘部も三味線のバチのような形となります (図8)。古墳の全長は残存値で約64m、推定値で約69m、円丘部の直径は推定値で約28mです。

③構造

少なくとも円丘部に3つ、方丘部に2つの段があります。墳端は、墳丘の内から外に向けて造られています。この古墳では、稲荷山姫塚古墳とは異なり、板石を特定の部位に低く積み込む傾向があるようです。

古墳が造られた時期は遺物から分かりませんが、立地や方丘部が低平で立体感が無く三味線のバチのような形であることから、古墳時代前期前半 (約1,700年前) に造られた古墳と考えられます。当時の中心地である畿内

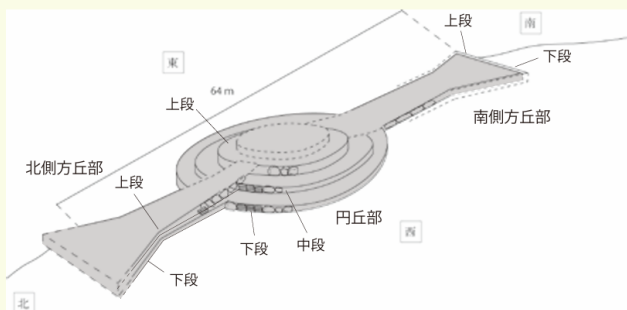


図8 稲荷山北端1号墳 墳丘推定図

域では双方中円墳は認められないことから、讃岐では独自にこうした特異な墳形を採用したことになります。稲荷山北端1号墳は、中央から地方へ古墳が伝わっていくという一方向だけの見方では古墳の築造を理解できないという、重要な問題を提起する古墳と考えられます。

4-3

5. 積石塚古墳と盛土古墳 (高松歴史資料館 展示模型)

2020.9.24

両者とも損壊部分は
模型上で復元されて
いるとのことです



5-1 鶴尾神社4号墳(積石塚古墳) (図3-2参照)

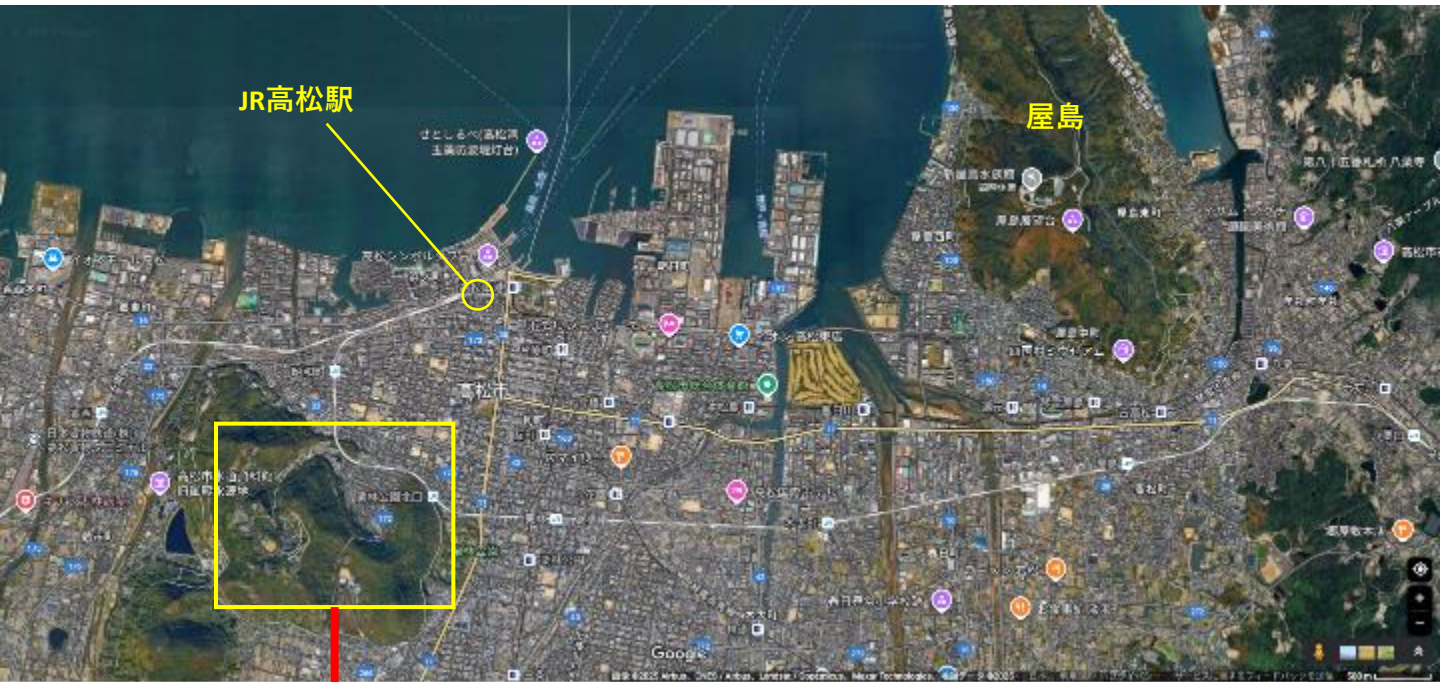
両者とも埋葬の方向
は東西重視のよう
です (by 管理人)



5-2 高松茶白山古墳(盛土古墳)

(※石清尾古墳群ではありません)

6. アクセス



Google Mapに黄赤で追記

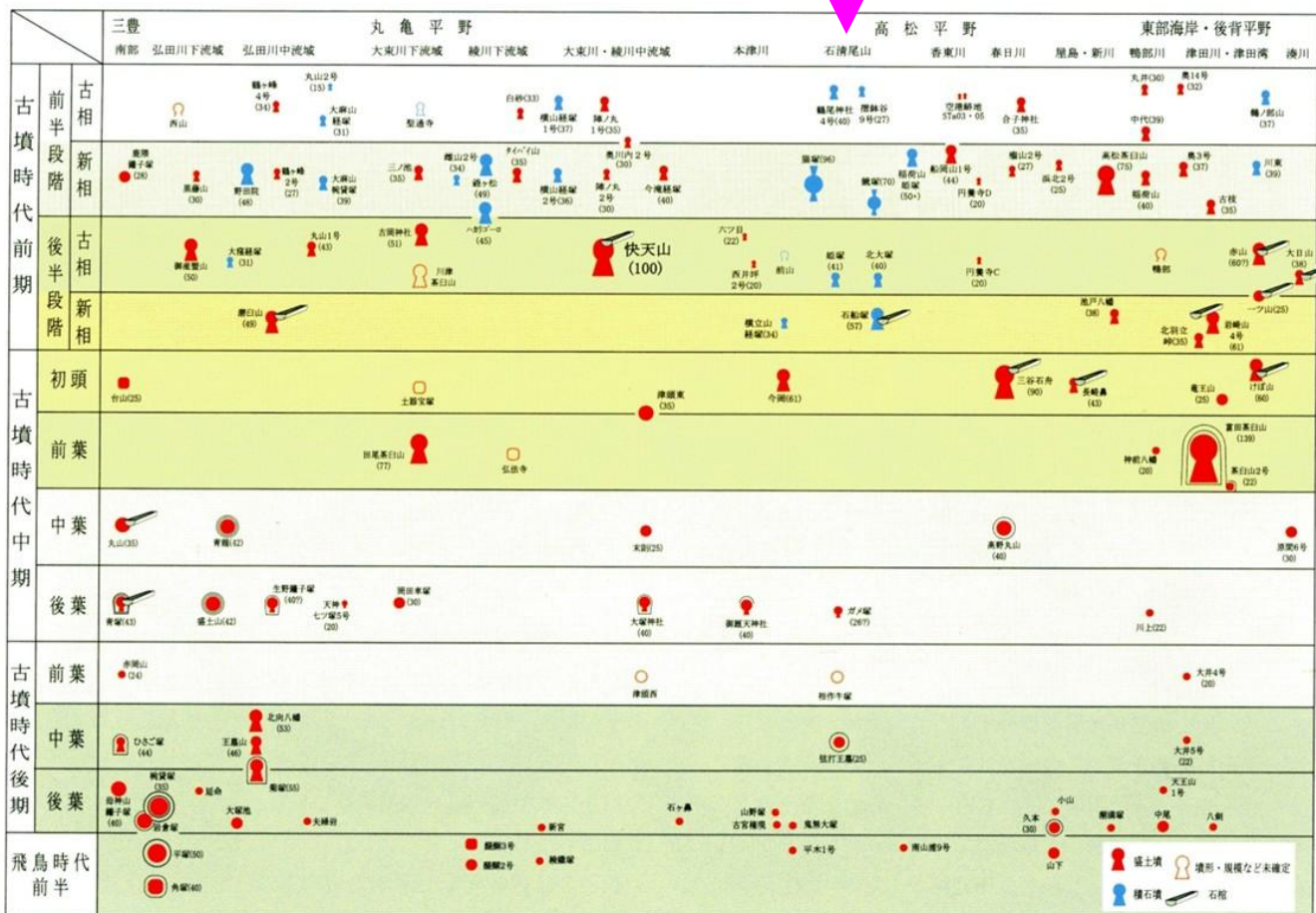


現地案内板

参考文献

- 1) 高松市埋蔵文化財センター 編集発行. 石清尾山古墳群稲荷山支群
稲荷山の積石塚古墳 ―発掘調査の成果と意義―. 2016 (H28), 8 p.
- 2) 平成26年度 第4回連載講座 石清尾山古墳群稲荷山支群
現地見学会資料 稲荷山姫塚古墳・稲荷山北端1号墳
～古墳時代前期の積石塚前方後円墳の調査～.
高松市創造都市推進局文化財課, 2014, 19 p.

< 参考 >



7-1

讃岐地域主要古墳編年表

参考文献2より引用 石清尾山ハイライト追記